福岡和白病院 広報誌

いのち、痛みに全力

地域医療により大きく貢献！！

VOL.
64
2026.1

CONTENTS

2-3 特集：外科
消化器がん
4 院長より新年のご挨拶
5 看護部長就任のご挨拶
6 福岡マラソン参加
7 定期演奏会開催案内
市民公開講座 開催スケジュール

外科特集

消化器がん

早期発見と進歩する外科治療

01 消化器がんとは？

消化器がんは、食べ物の通り道である「食道・胃・大腸」や、消化液を作る「肝臓・胆のう・膵臓」など、腹部の臓器に発生するがんの総称です。
日本では**がん全体の中でも特に罹患率が高く**、中でも「胃がん」「大腸がん」は早期発見・治療により高い治癒が期待できます。一方で、「胆道がん」「膵がん」は進行が早く、専門的な治療が必要になります。

02 当院外科で扱う主な消化器がん

胃がん	胃カメラ検査で早期発見が可能です。早期がんなら内視鏡手術、進行がんでは外科手術により根治を目指します。
大腸がん	便潜血検査で発見されることも多いがんです。進行度に応じて腹腔鏡手術を中心とした低侵襲治療を行います。
肝がん	肝炎ウイルスや脂肪肝が原因となることがあります。画像診断と腫瘍マーカーを組み合わせ、手術や局所療法を選択します。
胆のう・胆管がん	症状が出にくく、精密検査が重要です。手術は高度な技術が求められますが、当院外科では経験豊富な医師が対応しています。
膵がん	早期発見が難しいがんのひとつです。CT・MRI・超音波内視鏡など多角的な検査を組み合わせ、チームで治療方針を検討します。

03 外科治療の進歩 ― 当院の強み ―

■ **ダ・ヴィンチ手術（ロボット支援下手術）の導入**

当院では、より精度の高い外科治療を行うために**ロボット支援手術システム「ダ・ヴィンチ（da Vinci）」**を導入しています。
ダ・ヴィンチ手術は、外科医が専用コンソールを操作し、ロボットアームを用いて行う最新の外科治療です。
高精細3D視野と、人の手以上の自由度をもつアームにより、繊細で安全性の高い手術が可能になります。

＜主なメリット＞

- **精密で安定した操作性**
  手ぶれのない動作と高倍率視野により、神経・血管を守りながら腫瘍を切除できます。
- **患者さまの負担が少ない低侵襲性**
  小さな傷で行えるため、術後の痛みが少なく回復が早い傾向があります。
- **生活機能の温存に有利**
  特に大腸がん手術など狭い骨盤内での神経温存に優れています。

当院では、胃がん・大腸がんを中心に、患者さまの状態に合わせて**腹腔鏡手術とダ・ヴィンチ手術を組み合わせた最適な治療**を提供しています。

■ **腹腔鏡手術による低侵襲治療**

当院では腹腔鏡手術も積極的に導入しています。

＜主なメリット＞

- 傷口が小さく、痛みが少ない
- 早い回復で日常生活への復帰がスムーズ
- 手術中の出血が少ない

胃・大腸はもちろん、一部の肝臓・膵臓の手術でも腹腔鏡を活用し、安全性と根治性を両立させています。

■ **チーム医療による包括的治療**

消化器がん治療には、外科だけでなく、内科、放射線科、病理、緩和ケアなど、多職種の連携が不可欠です。
当院では**キャンサーボード（合同カンファレンス）**を定期開催し、患者さま一人ひとりに最適な治療方針を検討しています。

■ **術後サポートも充実**

術後の痛みのケア、食事指導、退院後のフォローアップなど、患者さまが安心して治療に向き合える体制を整えています。
リハビリスタッフとも協力し、早期の社会復帰を支援します。

04 早期発見のために大切なこと

消化器がんは、早期には自覚症状がほとんどありません。
そのため、**定期的な検診が最も重要**です。

▶ **こんな症状があれば早めの受診を**

- 食欲不振・体重減少
- 胃の痛み、胸やけ
- 便通異常（下痢・便秘・血便）
- 黄疸（皮膚や白目が黄色くなる）

検診や健康診断で異常を指摘された場合は、放置せず、早めに専門医の診察を受けましょう。

05 地域の皆さまへ ― 外科からのメッセージ ―

私たち外科は、地域の皆さまの健康を守るため、日々診療技術の研鑽を重ねています。
消化器がんは早期発見・早期治療が何より大切です。
「気になる症状がある」「最近検査を受けていない」という方は、ぜひ一度ご相談ください。
皆さまが安心して生活できる医療を提供するため、これからも努力を続けてまいります。

06 お問い合わせ

窓口：福岡和白病院　消化器病センター
TEL ：092-608-0001（代表）　月～土　9:00～16:30

2026年

年始挨拶

皆さま、新年あけましておめでとうございます。
2025年7月に現富永総院長から院長職をバトンタッチし、約半年が経過しました。昨年は4月にヘリコプターの大きな事故が起き、能力、人格ともに誰もが認める荒川渓先生がお亡くなりになりました。その衝撃は計り知れなく、時間がゆっくりとその悲しみを和らげてくれる中で、皆さまの医療に対する真摯な気持ちと協力のおかげで病院が機能を果たし、新米院長としては何とかやってこられたのではないかと思っております。約8割近い病院が赤字経営となっている現在の厳しい医療環境の中、和白病院が今後どのような方向を目標に進むべきかを常に考えております。地域における医業の役割分担が加速する中で、福岡市東区で和白病院は「困ったら頼れる病院」として他の医療機関から評価を受けていることは、大変喜ばしいことと思います。そうした医業の役割分担をより効率的に進めるため、昨年は入退院コントロール機能を入退院支援センターに集約し、福山先生の陣頭指揮のもと、入院患者さまの総量コントロールができるように各部署に協力いただきました。また看護部門においては、現在進行形ではありますが、救急部とＩＶＲ部門人員の独立性の確保を試みております。病院の活動を院内外に発信することを目的に、有田先生を中心に広報部を立ち上げ、広報活動、並びに職員の意見が今まで以上にキャッチアップできるような試みも行っております。まだまだ改善できることは多いのですが、少しずつ進められたらと考えております。診療においては、今までの救急医療はもとより、今後は地域がん診療拠点病院として、さらにがん診療を充実させていけたらと考えております。がん患者さまに対し、診断と最善の治療がスピーディーに提供できる様な体制づくりが必要で、手術室の増築はその一環であります。ハードの充実はもちろんですが、人員という側面からも体制を強化していくことで、より地域の皆さまに信頼できる病院として成長できたらと思っています。いずれにおいても皆さまの協力無くして成しえない事と思いますので、何卒宜しくお願い申し上げます。

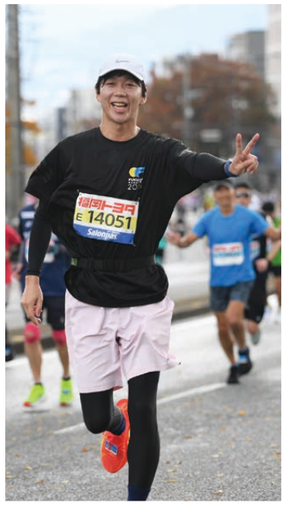
福岡和白病院 院長
蒲池 浩文

ごあいさつ

当院看護部は、「手には技術　頭には知識　患者様には愛を」という理念のもと、患者さまお一人おひとりに寄り添い、温もりと信頼のある看護を提供できるよう、日々努めております。
医療の現場は日々進化し、看護にもより柔軟で多様な対応力が求められる時代となっています。こうした変化の中にあっても、私たちは確かな技術と知識に裏打ちされた、思いやりのある看護の実践を何より大切にしています。
そして、その看護の質を支えるのは「人」であり、「人と人とのつながり」だと考えています。
私たちは、職員同士が気兼ねなく言葉を交わし、対話を重ねることのできる風通しの良い組織づくりに力を入れています。
このような日々の対話が、スタッフ一人ひとりの成長やチームの信頼関係を育み、結果として看護の質、さらには医療全体の質の向上につながっていくと確信しています。
「ここで働き続けたい」「ここは働きやすい」と職員が実感できるような、安心と信頼に満ちた職場風土を築くこと。
そして、これからの医療を担う若い世代に「ここで働きたい」と思ってもらえるような、魅力ある組織であり続けること。
これらは、看護部として私が最も大切にしている想いです。
今後も、患者さま・ご家族さまに寄り添うあたたかな看護と、スタッフがいきいきと働ける職場づくりを両立しながら、地域の皆さまに信頼される看護部を目指してまいります。
どうぞよろしくお願いいたします。

看護部長
横瀬 佳代子

福岡マラソン参加



看護師

福岡マラソンに医療スタッフとして参加し、ランナーの皆さまのサポートを行いました。救護室には、足がつってエアスプレーによる処置を希望される方や、足にできたマメの手当を必要とされる方など、さまざまな症状で来室されました。また、中には脱水症状により嘔吐を伴う方もいらっしゃいました。

幸いにも、命にかかわるような重症の方はおらず、無事に大会を終えることができました。地域の大きなイベントに医療の立場から関わり、ランナーの皆さまの努力と笑顔を間近に感じられたことは、私たちにとっても大変貴重な経験となりました。今後も地域に寄り添い、安全を支える医療提供に努めてまいります。

ランナー

大会当日は、朝から小雨が降ったり止んだりと不安定な天気で、コンディションとしては決して走りやすいとは言えませんでした。それでも、沿道から送られる「がんばれ!」の声や掲げられた応援メッセージに背中を押され、無事に完走することができました。

走っている最中は、「もう絶対に次は参加しないぞ!」と思うほど苦しい場面もありました。しかし、不思議なことにゴールをした後、達成感に包まれながら一緒に参加した仲間と振り返りをしているうちに、「また来年も挑戦してみたい」と思える自分がいました。

マラソンはきつさの中にも、仲間とのつながりや、沿道からの温かい応援、そしてゴールした瞬間の何とも言えない喜びが詰まっています。今回の経験は、私にとって忘れられない思い出となりました。

理学療法士

セラピストとしては、主につった脚のストレッチや、走行を続けられるよう負担を軽減するためのテーピングを行いました。症状が改善し、再びスタートへ向かうランナーの背中を送り出すたびに、支援できることの喜びを感じました。

地域のスポーツイベントに医療専門職として関わり、ランナーの努力や熱気に触れられたことは、私にとっても大変貴重な経験となりました。今後も地域の健康づくりに貢献できるよう努めてまいります。

福岡和白病院

定期演奏会開催のご案内

診療の合間に、やさしい音楽のひとときを。

福岡和白病院では、院内で気軽に音楽に親しんでいただける「福岡和白病院 定期演奏会」を開催しています。やさしい音色を身近に感じていただける、生演奏のミニコンサートです。外来の待ち時間や、お近くにお越しの際に、ぜひお気軽にお立ち寄りください。

会場	福岡和白病院 PET2階 大会議室
参加費	無料（どなたでもご自由にご参加いただけます）

※開催スケジュールについては、当院ホームページまたは
LINE公式アカウントのイベント情報をご確認ください。
※スケジュールの都合により、変更・休止となる場合がございます。

お問い合わせ先 福岡和白病院 リハビリテーション科
TEL.092-608-0001（月～土 9：00～17：00）

1月スケジュール

1/13（火）	11：30～
1/17（土）	10：00～
1/24（土）	10：00～
1/27（火）	11：30～

※開催時間は曜日によって異なります。

市民公開講座

開催スケジュール

開催日	開催時間	診療科	講師	テーマ
1/17	10：00～12：00	栄養管理室	大山	もしものときの“食”の話 ～大切な人と考える栄養と選択～
1/24	10：00～12：00	薬局	伊藤副主任	薬の正しい飲み方、 薬の飲み合わせについて
2/7	10：00～12：00	乳腺外科	西山 Dr.	乳がんについて

講座の後は、体操教室も行っています。当日参加も大歓迎です。
開催のご案内は公式 LINE や Facebook でもお知らせしています。
ぜひチェックしてみてください。

LINE　Facebook

お問い合わせ
福岡和白病院 医療連携室 092-608-0001 月曜～金曜 9:00～17:00

福岡和白病院　広報誌
第64号　2026年1月発行

基本理念

手には技術、頭には知識、患者様には愛を

基本方針

1. 高度医療　学問的に高い水準の医療を提供します。
そのために必要な施設・設備の整備拡充に努めます。

2. チーム医療　患者さまの目線に立った安全で安心できるチーム医療を提供すべく、
急性期医療から、早期リハビリ、退院支援までニーズに沿った医療を提供します。

3. 地域医療　いつでもだれでも安心して利用できる、救急医療に重点を置いた地域の中核病院を目指し、地域の医療施設・福祉施設と密接な連携を推進します。

患者の権利と義務

1. 思いやりのある、人権を尊重した医療を受ける権利があります。
2. 担当医師から症状及び治療方法について説明を受け、良く理解した上で自らの意思に基づき治療方法を選択したり、セカンドオピニオンを求めたり、また治療を拒否する権利があります。
3. プライバシーを保護される配慮を受ける権利があります。
4. 医療費の請求書の明細について説明を受ける権利があります。
5. より良い医療を受けられるよう医療従事者と協力し、積極的に医療に参加する権利と他の患者様や医療従事者に支障を与えないよう配慮していただく義務があります。

交通アクセス

福工大前駅（JR）から徒歩15分
和白駅（JR）から徒歩10分
和白丘バス停（西鉄）から徒歩3分
和白駅（西鉄）から徒歩10分
福岡空港から車で約30分

社会医療法人財団　池友会　**福岡和白病院**

〒811-0213 福岡市東区和白丘2-2-75　E-mail info@f-wajirohp.jp

TEL.092-608-0001（代）　福岡和白　検索

災害拠点病院　開放型病院　地域医療支援病院　救急告示病院
基幹型臨床研修指定病院　特定行為研修指定研修機関
日本医療機能評価機構認定病院　がんゲノム医療連携病院
地域がん診療連携拠点病院　福岡県 DMAT 指定医療機関

ホームページ
YouTube 福岡和白病院チャンネル
Facebook
Instagram
LINE